

さかほぎちょう  
**坂祝町議会(岐阜県加茂郡)**

宮本 理一郎

最初の訪問先だった坂祝町は、何とも素晴らしい風光明媚な土地柄でした。飛騨木曾川国定公園・日本ラインがあり、水と風がつくり上げた奇岩は、自然の力の不思議さ、素晴らしさが感じられました。その景色の真正面に町舎が建てられていました。

坂祝町議会は、議会の活性化への取り組みが顕著で、議会傍聴の啓発、休日・夜間議会の開催、一般質問の方式変更、議会広報の作成、ICT議会の開催など、開かれた議会を目指していました。

大きな特徴は、議員間のコミュニケーション強化と情報の共有化、経費削減を目的としたタブレットを活用した議会を開催していることでした。事務局がデータ化した議会資料を議員がタブレットにダウンロード・保存し、閲覧していました。そうすることにより、用紙を削減でき、印刷製本時間も大幅に短縮、職員の負担も軽減され、大きなコスト削減が得られたとのことでした。

国・県でもタブレット導入が始まっており、上毛町議会でも近々結論を出さねばならない懸案の一つです。

坂祝町議회를視察して、議会活性化の具体的手法やシステム、方向性などを広く深く研修でき、両議会間に友好の礎ができたことは研修の大きな意義だと思います。

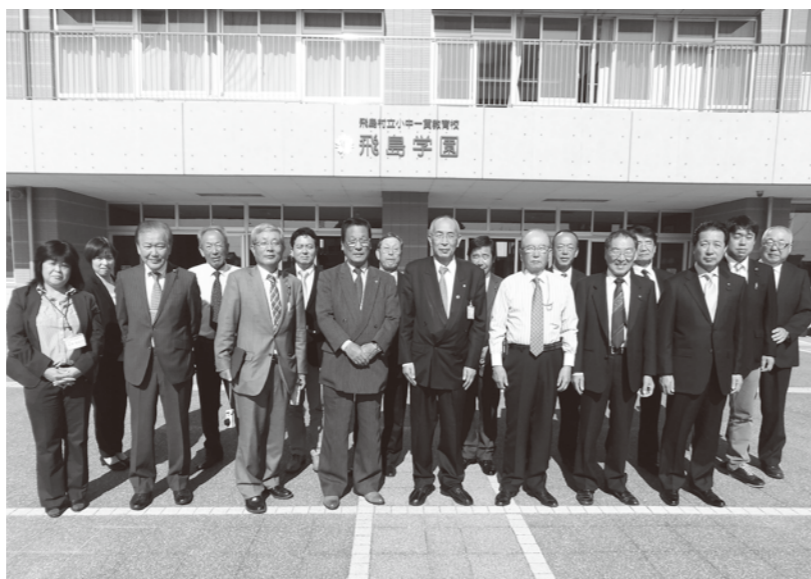


とびしまむら  
**飛島村(愛知県海部郡)**

三田 敏和

研修の最後は、愛知県海部郡飛島村を視察しました。飛島村は、愛知県の西南部に位置し、名古屋市に隣接、伊勢湾にも面し、面積22km<sup>2</sup>余り、名古屋港西部臨海工業地帯の一部に編入されています。人口4412人、稲・麦、野菜、花を中心とする農村部と、名古屋港を中心とした貿易の拠点としての機能が共存している村です。村の中央部に開通した伊勢湾岸自動車道の飛島ICにより、名古屋港物流の重要な地域として発展しています。財政も豊かで、平成26年度財政力指数2.09(上毛町0.27)、歳出総額56.5億円(上毛町45億円)を計上しています。

住民の反対により合併協議会から脱退し、「小さくてもキラリと光る村づくり」を推進しています。人づくり、特に教育に力を入れ、小中一貫教育校「飛島学園」と国際交流については学ぶことが多い村でした。



○小中一貫教育

小中一貫教育校「飛島学園」は、東海地震に係る地震防災対策強化地域に指定され、校舎の建て替えを余儀なくされた平成14年の翌年から検討委員会を設置(のちに教育特区研究会を設置)、最終的に建設費32億円で平成22年度に開校しました。

教育内容として、小・中学校9年間を見通した系統的・計画的な教育活動を展開するため、「発達段階を考慮した指導」「基礎学力の充実・発展」「英語教育の充実」の3つを柱とし創意工夫による教育課程を編成しています。

特に、発達段階の特性を考慮して、小・中学校の9年間で、初等部4年(小1～小4)・中等部3年(小5～中1)・高等部(中2～中3)の3段階に区分し、中一ギャップを解消、不登校生がいないことも成果の一つと思われまます。

○国際交流

平成3年度から、続けている事業で、当時、現村長が課長時代に企画したが議会に否決されました。議員の本音を聞き、全員参加させるようになったというエピソードがあったようです。参加対象は、中学2年生(平成27年度35名)、費用は全額村負担(概ね一人当たり40万円)、カルフォルニア州リオビスタ市に5泊7日ホームステイします。参加者には面接試験を行うが、全員参加させるための試験と久野村長は言い切っていました。全盲の生徒も母親が同行し参加した事例もあり、障がいのある生徒も含め全員が参加しています。「村」を恥ずかしく思う生徒に「アメリカに研修に行ってきたぞ。って言えば」と誇りを持たせています。「なぜ、アメリカなのか」と聞かれるが、稲作は村の基幹産業、アメリカのスケールの大きい稲作農家の見学はためになり、私たちはアメリカ圏内で生活している。戦争を通り越してはならない。歴史を学ぶ必要があると村長は断言していました。

# 議員研修

平成27年11月4日(水)～6日(金)

議会の活性化や改革、本町が推進中である大池公園周辺開発事業、国際交流事業などについて学ぶため、愛知県・岐阜県内の自治体や施設を視察しました。議員全員が参加し、活発な質疑が交わされ、非常に有意義な研修となりました。



## 刈谷ハイウェイオアシス(愛知県刈谷市)

宮崎 昌宗

日本で3番目の入場者数のテーマパークとしてマスコミなどに取り上げられた刈谷ハイウェイオアシス、ハイウェイが意味するように高速道路のパーキングエリアです。愛知・静岡・三重をつなぐ高速道路「伊勢湾岸道」の「刈谷パーキングエリア」と岩ヶ池公園が直結している施設です。施設には、土産屋・直売所・レストラン・小さな遊園地・温泉などがあります。

この施設は、高速道路からの利用はもちろんですが、一般道からも入場でき、利用客は半々とのこと。入場者としてのカウントは単なる高速道路からの休憩者は含まず、お金を使った人だけをカウントしているの、単に交通アクセスの良さだけで入場者数全国3位になったわけではないのが特徴です。ちなみに1位は東京ディズニーリゾート、2位はユニバーサルスタジオジャパン(U S J)。つまりパーキングエリアとしては日本一の施設となります。

現在、上毛町が東九州道上毛PA・スマートICに隣接した大池公園周辺を、地方創生の起爆剤として開発をする計画を進めています。上毛町議会としては開発計画に議員各自が様々な意見を持っています、行政に対し議論をしていくためにも日本一の成功事例を視察研修してきました。

行政規模・経済圏・周辺人口など諸条件を考慮すれば、刈谷ハイウェイオアシスを真似ることはできません、しかし学ぶべきところが多くありました。以下、学びとなった事柄です。

○民間活力の導入

公園管理、商業施設の運営をするため、刈谷市商工会議所と連携し、民間ノウハウを取り入れ、意見交換をしながら基本計画や設計を行い、運営会社も設立。

オアシス館刈谷(案内所)だけ行政で整備し、商業施設はすべて民設民営。土地は年間契約で刈谷市に借地料として支払い。

運営会社の会長は、地場企業の社長。多くの企業が出資し、リスクを背負って設備投資をしています。利益も出ているので配当もあります。



○管理費の確保

公園部分の年間管理費が1億3千万円ほどかかるが、有料遊具を設置し、安価でも収益(年間6千万円)を確保することで管理費が半減されています。

○地道な努力

飽きられないためイベントを多く企画し、例えば地元小学生が出演するコンサートなどを企画し、両親・祖父母を呼び込んでいます。

○地元密着

イベントを企画し、直売所や遊具など安さも武器にお客を集め、地元に着し長期間・継続的に足を運んでもらうのを一番の目的としています。



## トヨタ会館(愛知県豊田市)

峯 新一

愛知県豊田市にあるトヨタ会館を視察しました。トヨタ発展の歴史や最新の自動車技術、環境に優しい事故を起こさない自動車を開発するトヨタの取り組みなどがわかりやすく解説されていました。また、ショールームには普通車から高級車までさまざまな車種のトヨタ車が展示されていて、自由に運転席に座ることもできました。

「世界のトヨタ」と言われているだけあって、早朝にもかかわらず、小学生から外国人まで多くの見学者が訪れていて驚きました。

見学を終え、バスの中から豊田市の町並みを眺めていると、トヨタ関連企業が数多く建ち並んでいて、豊田市全体がトヨタとつながっているのだと思いました。

